

クボタ・ブランドCMシリーズ 第8弾
長澤まさみさんら総勢 100 名が、
行進しながら活気あるダンスを披露！
無人自動運転する「アグリロボトラクタ」と共演し、
自動化がもたらす農業の未来を高らかに歌い上げる！

新TV-CM『壁がある。だから、行く。日本アグリロボ』篇

2018年12月30日(日)からオンエア開始

～過去2年分の作品を編集したスペシャルCM『笑顔がまっている篇』60秒も同日より放映～

株式会社 クボタ(本社:大阪市浪速区、代表取締役社長 木股 昌俊)は、女優の長澤まさみさんを起用した、シリーズ第8弾となるブランドTV-CM『壁がある。だから、行く。日本アグリロボ』篇(15秒、30秒)と、長澤さんが出演した過去2年間のTV-CMを編集したスペシャルCM『壁がある。だから、行く。笑顔がまっている』篇(60秒)を、2018年12月30日(日)から全国でオンエア開始いたします。



新TV-CM『壁がある。だから、行く。日本アグリロボ』篇より

■コミュニケーションスローガンについて

「壁がある。だから、行く。クボタ」

2017年1月からブランド強化の一環としてスタートしたコミュニケーション活動のスローガンは、「壁がある。だから、行く。クボタ」。食料・水・環境分野の困難な課題解決に果敢に挑戦するクボタグループの企業姿勢と価値観を示し、TV-CM や WEB をはじめとする、さまざまなコミュニケーション活動の中で共通して使用しています。壁の向こう側にこそ、未来があり、世界に壁があるかぎり、ひたむきに挑み続けていく、というクボタのメッセージを訴求しています。

■TV-CM について

当社は、日本の農業に貢献するべく、ICT、ロボット技術を活用して、超省力・高品質生産を実現するスマート農業の実現に向けて取り組んでいます。今回の新 TV-CM『日本アグリロボ篇』は、有人監視下による無人自動運転で農作業が可能な「アグリロボトラクタ SL60A」をテーマに制作しました。

CM の舞台は、美しい朝日が差し込む日本の農場。稲穂を掲げる長澤さんに先導された農家の人々が、無人自動運転する「アグリロボトラクタ」とともに、「朝から農業！」「クボタで農業！」「これがわれわれの農業！」と歌い踊りながら、どこまでも続くあぜ道を笑顔で行進するシーンを通じて、未来の農業の喜びを表現しています。中盤では、社名の「K」「U」「B」「O」「T」「A」のリズムに合わせてユニークなポーズを決める農家の皆さんの楽しい表情のシーンが、終盤では、長澤さんがとびっきりの笑顔で農家の皆さんとおにぎりを食べながら、団らんするシーンが入ります。そして、「クボタは自動化で農業を未来へ」というナレーションのあと、「クボタ！」の掛け声と共に締めくくられます。

一番の見どころは、長澤さんを筆頭に、総勢約 100 名の出演者が一体となって、活気あるダンスを披露するシーン。躍動感あふれるダンスに合わせ、無人自動運転で田んぼを耕していく「アグリロボトラクタ」の軽快かつ力強いアクションが印象的な楽しい CM に仕上がりました。

さらに、長澤さんが出演した過去 2 年間のクボタ・ブランド CM を基に構成された『壁がある。だから、行く。笑顔がまっている』篇(60 秒)では、長澤さん自らがナレーションを担当。これまでに訪れた欧米、中東、アジアなど世界の人々との交流を振り返りながら、暮らしと社会に貢献するさまざまな取り組みで、現地で生活する老若男女さまざまな人たちに笑顔を届け続ける、クボタのグローバルな活動を紹介します。

◇クボタの「アグリロボトラクタ」について

日本農業は農家の高齢化に伴う離農や委託により、営農規模の拡大が進んでいます。そのような状況下、作業効率の向上や省力化を実現する農業機械が求められています。

「アグリロボトラクタ SL60A」はこのような背景のもと、有人監視下による無人自動運転で農作業を可能にし、担い手農家を支援する農業機械として 2017 年 6 月よりモニター販売を開始いたしました。

SL60A は、リモコンによる遠隔指示で、作業開始、停止が行えます。高度な GPS と自動運転技術による精度の高い作業が可能になります。さらに、無人機と無人機の監視機能を装備した有人機の 2 台を使用した協調作業も可能です。※自動運転作業中は監視が必要です。

■株式会社 クボタ

1890(明治23)年の創業以来、水道用鉄管による近代水道の整備、農業機械による食料増産と省力化、環境施設による人類と環境の調和など、暮らしと社会に貢献するさまざまな製品を提供してきました。優れた製品・技術・サービスを通じて食料・水・環境分野の課題解決に挑戦し、地球と人の未来を支え続けてまいります。

【代表取締役社長】 木股 昌俊

【売上高】 17,515億円(2017年12月期・連結)

【従業員数】 39,410 名(2017年12月期・連結)

【本社所在地】 大阪市浪速区敷津東一丁目 2 番 47 号

<日本におけるクボタのスマート農業への取組みについて>

耕うん機の製造・販売や、国産初の畑作用トラクタなど、戦後の食糧難や高度経済成長時における農業人口の減少などの課題の解決に向け、さまざまな農業機械を開発し農家に寄り添った製品・サービスを世に送り出してきました。そして今、農業が“魅力ある強いビジネス”に成長するために、「農機自動化による超省力化」と「データ活用による精密化」を主軸に据えた、スマート農業の実現に取り組んでいます。

2016年9月には、直進時のみ自動操舵走行が可能な「直進キープ機能付田植機」を、また2016年12月には、直進だけでなく曲線経路も自動操舵走行(オートステアリング)が可能な「畑作用大型トラクタ」を発売。2017年6月には、業界初となる有人監視下による無人自動運転で農作業を可能にした「アグリロボトラクタ」のモニター販売を開始。さらに、2018年12月より、オペレータが搭乗した状態での自動運転による稲・麦の収穫作業を可能にした「アグリロボコンバイン」を業界に先駆けて本格販売しました。これらの農機の自動化に加え、作業進捗・栽培管理や作物情報を機械と連動し収集・分析し、経営に役立てる営農支援システム「KSAS(クボタスマートアグリシステム)」など、耕うんや収穫などの作業効率をさらに引き上げ、最小限の労働負荷で精密な作業を可能とする技術開発にも注力しています。